



公益財団法人 星総合病院

特別記念号

けんこう 懸虹

創刊

300号

『懸虹』と星一雄先生



「懸虹」とは？

昭和50年、星一雄前理事長が暗い世相と厳しい世界情勢の中、どんなに厳しい現実の中にも虹（夢と希望）を見ようと詠った句「怒濤散跳 春陽懸虹」で、新年のあいさつの言葉。広報誌の名称募集時に職員から応募があり、「病院と地域のみなさまとの間に虹を懸ける」ということと病院の使命である「健康」とをかけて選ばれた。

題 字

前理事長直筆の表題。病院報No.1（昭和50年4月）から現在も続いている。

表紙絵画

平成12年より前理事長の画集『星一雄作品集～チャールズ会とともに～』の中から季節に合ったものを掲載。平成16年には『星一雄作品集～時の流れの中で～』を作成したため、以後は2冊から掲載。

怒濤散跳
春陽懸虹

昭和50年、病院報として発行したNo.1から40年余 — この度『懸虹』はNo.300を迎えました。

これまでご協力いただき、あたたかく見守ってくださった皆様に感謝申し上げます。
今回は往時をしのび、元職員として、現在は当法人の評議員として、長年当院を見守ってくださっている
お二人に手記を寄せていただきました。

五十嵐先生は、星総合病院の医師も増えた昭和60年頃、消化器科部長として持ち前の明るさとその人間的魅力で
医局をまとめ盛り上げてくださいました。

医療法人やすらぎ会 いがらし内科外科クリニック
理事長 五十嵐 忠 行

星総合病院が刊行している広報誌「懸虹」は、当初院内向けとして刊行されていたと聞いている。平成8年から院外向けに発刊され、その初刊にも寄稿させてもらった記憶があるが、今回300号記念号にも寄稿できることに心から感謝している。

今年の6月、旧暦5月端午の節句の頃、喜久田町緑水苑を訪れてみた。紫陽花にはちょっと早い、花菖蒲、ハス、サツキやバラなどが咲き乱れ、木々の緑や水の青さと合わさり苑を訪れる人々を楽しませていた。まさに県内一の庭園。私は郡山にきてから32年、緑水苑の花々や木々の緑を楽しみながら歳を重ねてきた。ここの花や木々の鮮やかさは年を重ねるごとに美しく又強くなっているが、自分の体力の衰えは徐々に進み、今年は特に衰えた感じがする。

さて、私は1988年に郡山に移住し星病院に勤めることになったが、その当時、星病院は消化器科が充実していなかった。そこに常勤として私と平栗誠先生、務川靖先生、菅野隆治先生、非常勤として谷病院から吉田幹男先生、慈恵医大から宗像博美先生、水沼仁孝先生を迎え、消化器科診療が始まった。当時、治療内視鏡の最先端で研究を行っていた昭和大学藤が丘病院に、私と平栗先生、吉田先生は約1カ月、菅野先生は下部内視鏡術の研修に約1年間行かせてもらった。この時の消化器科診療目標は①上部消化管内視鏡診断と治療内視鏡②一人法による大腸内視鏡検査③選択的血管造影法を用いた肝臓癌の早期発見と血管内塞栓治療の3点を挙げた。福島県内では、いち早く電子内視鏡を導入していただき、緊急内視鏡止血術、内視鏡的胃ポリープ切除術、内視鏡的大腸ポリープ切除術、十二指腸乳頭切開術、食道静脈瘤内視鏡

止血術、経皮的胆管ドレナージ術、胆道鏡などに積極的に取り組んだ。これらの検査法を効率化するため、現在のパスのようなものを作った。今でいう多職種連携のようなものである。「緊急止血!」「EST!」「EUS!」「PTCD!」などの指示が日常として行われていたものであった。その結果を全国の消化器内視鏡学会総会や、春秋の東北地方会に毎年発表させてもらった。40歳の時には自分自身も胃の全摘手術を経験したり、星病院在職中色々と忙しかったが、極めて充実した9年間であった。

1996年、郡山市内並木に開業したが星病院の並木外来分院のようなものだった。22年経った今も星病院との連携はますます強くなっていると感じている。2017年に診療所を新築増築、2019年4月には歯科を開業し、さらに10月には整形外科を開業予定である。スタッフは常勤医7名をはじめとして総勢70人を超える大所帯となり、益々充実したクリニックとなるべく事業を展開している。

我がクリニックは「和を以て尊しとなす」を院是としているが、事業を遂行するために①patients is first ②employee is first ③economy is firstを掲げ、職員に周知徹底している。クリニックが30年・50年続くために、①病診連携、診診連携を今まで以上に充実させる②医師をはじめとする全ての職員が認知症に対する認識を持つ③地域包括ケアシステムを十分に理解遂行し、看取りまでの在宅医療に力を入れる。以上の3点に力を入れている。この3点の意味は今後、我がクリニックの対象とする患者さんの大半が75歳以上の後期高齢者であることを考えてである、と同時に医療界にとっても大切なことと考えている。

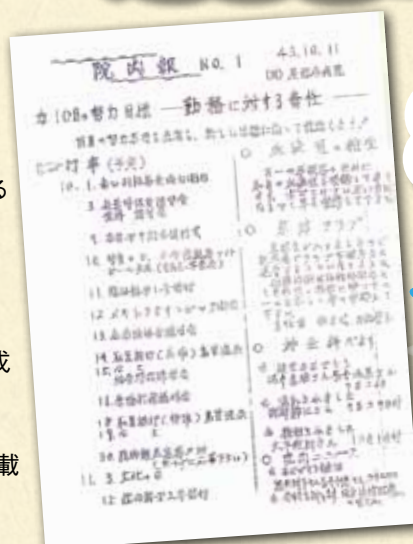
星病院には今までどおりの相変わらぬご支援と連携を宜しくお願いするものである。

年寄りを元気にさせるのは孫が一番…???
(意味不明)

『懸虹』のあゆみ

- 昭和43年 10月 No.1 院内報として発行 (B5版2枚)
- 昭和50年 4月 名称募集により『懸虹』に決定
病院報『懸虹』No.1として発行開始
- 昭和51年 4月 No.13より印刷業者による活字印刷開始
- 昭和60年 10月 No.100発行 記念誌祝星ヶ丘病院落成
- 昭和62年 1月 No.133新年号より表紙・裏表紙がカラーになる
- 昭和63年 3月 No.118より2色刷りになる
- 平成7年 6月 No.191よりA4版8ページとなる
- 平成8年 3月 No.200発行
- 平成8年 5月 No.201を機に院内報から院外報へ
広報紙として院外報『懸虹』と院内報を2つ作成
- 平成17年 5月 No.250記念号より全ページカラーとなる
- 平成23年 5月 No.271新病院着工・東日本大震災特集号
No.272~275にて新星総合病院工事情報を掲載
- 平成25年 1月 No.276新星総合病院開院特集
- 令和元年 8月 No.300発行

No.1は鉛筆書きの原稿を刷って
職員に配ったものでした。



その後はガリ版刷り。
原版を手書きして
ローラーで1枚1枚
刷っていました。



藤木さんは、法人事業本部の参与として『懸虹』の編集を担当されており、平成12年には、星総合病院開設75周年記念誌「ひと・医療・未来」の企画・編集を担当されました。

公益財団法人星総合病院 評議員 藤木 艶子

300号ですか！お見事です。

その一端を担当させて頂いた者として、とても嬉しく誇らしい感慨深い出来事でございます。誠にありがとうございます。

ご縁を頂いたのは、前理事長星一雄先生のお言葉でした。前職の定年を前にした私にかけて下さった先生のお言葉、「うちに来ないか？」「私は病人を抱えておりますので、そちらに専念いたします。」「病人がいるなら尚のこと、病院と繋がりがあった方が良いでしょう。」そのお言葉が決定打でした。

晴れて私は財団法人星総合病院の職員となり、「懸虹」の編集発行を荷負うことになりました。

広報誌は、その機関の活動内容、情報発信、宣伝、あるいは連絡・交流がその使命です。各部門への取材が一番のカギでしょうね。取材が出来なければ一步も進まないこの仕事、私はとても心配でした。病院の皆様は、定年を迎えた女性を受け入れて下さるだろうか？爪弾きされるのではないかと。これは私の全くの偏見で、大変失礼なことであったと自身を恥じています。皆様は友好的で親切で、どんなにか助けて頂いたかわかりません。私は、何もかもが珍しく興味深くて、面白く仕事が出来ました。

引き継ぎました時「懸虹」はB5版でありました。当時、社会一般にはA版に移行しつつある時代でもあり、姿を

変えようとしたのですがA4版に変更いたしました。

「懸虹」という積み重ねがどんなに大切か、一步一步が深い意味を持つのか身を持って感じておりました。

病院が創立75周年を迎える前年に、現在の理事長北斗先生から「記念誌を作りたいので担当してほしい。」との仰せがありました。振り返ってみると、知識の乏しい私が何とか形を見ることができたのは「懸虹」の積み重ねです。

百周年もうすぐなのですね。あと6年とか。今度記念誌をお作りになるなら、患者さんの声を一杯に反映したものがいいと思っています。地方に医療設備が普及していない時、心臓を病んでいた方のためにコメディカルの方々と車に医療機器を載せて、患者さんを東京まで運んで施療して命を取り留めたという逸話が伝説として残されています。「助けて頂いた恩人です。」「星病院のお陰です。」沢山の患者さんのお声が聞こえてきます。

「患者さんと共に百周年」そして素晴らしい病院、その病院の内外。その中で生まれた人間模様。これらのドラマ『病院に拾う』なんていいなあなど、勝手な事を考えています。えらい迷惑なことですね。

各診療科の先生も安泰ですね。権威の先生の後を継ぐ立派な先生方が育っていらっしゃいます。

病院の益々のご発展を、そして懸虹の栄光を切に願い筆を置きます。

No.250 記念号の表紙「醫霊」は当時の財務会計部 小瀧部長でした。

昭和43年10月に初めて院内報が発行された。当時カーボン紙様の上に紙を置き、その上から原版を起すデュプロ印刷で作成していた。私はこのデュプロ版の院内報の編集に携わった1人であるが、先生方からいただいた原稿を紙面に割付するのに苦労したこと、イラストを描いて紙面に載せたことなど、赤と青のカーボン紙を使っただけの作業はつい先日のような気がする。

大町に現在の東棟の建物が建つ少し前まで、病院と産總神社との間の道はまだ舗装されておらず、風が吹くとホコリが立ち雨が降るとぬかるんだ道であった。当時ガラス張りの建物が珍しかったこともあるが、回りを見渡しても病院の一角だけが近代的で輝いて見えた。患者さんが日に日に増し「患者さんのために、病院のためにがんばろう」と職員同士が声を掛け合い、私自身も病院で仕事することが楽しくてしかたなかった。

今、昔の懸虹にある写真・当時の様子を伝える記事を見ると、当時がよみがえり懐かしさがこみあがる。私にとって「懸虹」は何ものにも替えがたいなつかしい仲間との出会い、そして楽しい思い出である。

小瀧 千弘

平成17年5月『懸虹 創刊第250号 記念号』醫霊



すでに院外報となったNo.217(平成11年7月)には6名の編集委員が紹介されています。

懸虹編集委員



大槻 誠
(星総合病院
総務課長)



佐藤 康善
(星総合病院
中央検査科)



阿部和紀
(星ヶ丘病院
総合相談
地域連携室)



渡辺美保子
(学院 教務)

その中からこの4名に寄稿いただきました！



中央検査科 佐藤 康善

私が懸虹の委員になった頃はまだ新人で右も左も分からず、他部署のスタッフの顔も分からず大変苦労しました。次第に他部署の方々とも顔見知りになり、色々な行事にも参加させて頂くようになりました。主に写真を担当しており、フィルム時代だったので写真が出来上がって来るまでドキドキでした。大忘年会や病院旅行、星ヶ丘保育園の入園式・卒園式や運動会、ボラリス保健看護学院の行事にも参加し、さまざまな場面でその時々が一番いいスナップ写真をとるという気持ちで写真を撮っていました。ステキな瞬間が撮れた時は嬉しく、ピンボケなど残念な写真の時はとても悔しい気持ちになったのを思い出しました。デジタル化された今の時代を羨ましく思います。

総合相談課 阿部 和紀

「懸虹」編集委員を委嘱されたのは、私が星ヶ丘病院最初のソーシャルワーカーとして入職して2年目の年でした。想い起こされるのは、取材用に新たに購入してもらった一眼レフカメラ（もちろんフィルムカメラ！）が楽しくて、取材と称して星ヶ丘病院折々の情景を写真に残したことでしょうか。今も残る運動会や夏祭り等々沢山の写真からは、30年前は生活の場でもあった精神科病院の歴史を垣間見る想いがします。

これからも「懸虹」には、財団の今を写し取り、地域の方々和我々職員を繋いで欲しいと願っています。

法人看護部 渡辺美保子

懸虹の表紙が各部署の集合写真だった頃、編集に携わりながら病院内にはいろんな働き方があると知りました。編集後記を書く番になり、自分の手を題材に患者さんとの出会いや癒しについて書いたところ、当時の法人看護部長が目止めて下さり、私が教育に係るきっかけを作ってくださいました。物書きが好きだった私には、締め切りに追われることもありましたが、編集委員の仕事や委員の方々との交流はとても楽しく居心地の良い時間でした。

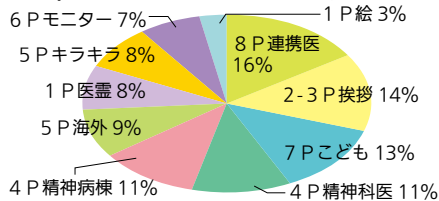
懸虹アンケート結果

(平成31年1月298号について)

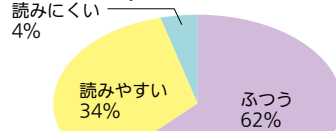
1月の「懸虹」発送とともにアンケートを実施。
職員・市内の医療関係機関を中心に
188枚の回答をいただきました。

新年ご挨拶や着任医師紹介、醫靈、連携医紹介など、医師の思いや人となりわかる記事がよかった、こども事業部やイベント紹介がよかったとの声も上がりました。

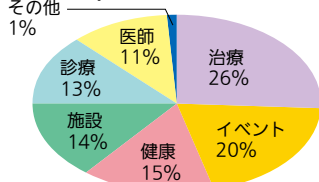
Q1. 興味を持った記事(複数回答可)



Q2. 読みやすさ



Q3. 知りたいこと



「最新の治療について」が最も多く、医療や健康について、参加型イベントについてなどが多く上がりました。

「文字が多いと読みづらい」「背景と文字が重なっている所があった」「レイアウトが悪い所があった」「タイトル文字が見えにくい」などがあがりました。もっと見やすい紙面を目指していきます。

Q6 ご意見・ご感想、提案(一部)

- ・ホームページのQRコードを入れてはどうか。
- ・内容は充実しているが、レイアウト・表紙デザインが固い。
- ・表紙の絵に温かみを感じる。
- ・毎号綴っておくと、困った時に調べられるようなものにしてはどうか。(健康情報や生活の知恵など)
- ・連携医にとって参考になるような内容を希望。
- ・イベントカレンダー(対象者や目的などが一目でわかるもの)
- ・健康チェックシートを付けて、検査を案内する。
- ・部署の新しい取り組みを取り上げてほしい。

みなさまにご協力いただきありがとうございました。以前より工夫している、見やすい、分かりやすい、充実している、楽しみにしているなどのご意見、お礼、励ましなどをたくさんいただきました。もっと見やすく充実した紙面を目指し、努力してまいります。

OPEN!

たむら市民病院

Tamura Municipal Hospital



7月1日、田村市船引町に「たむら市民病院」が開院、8時から開院式を行い、本田市長、星理事長、佐瀬病院長のごあいさつ、田村市議会 大和田議長より祝辞をいただきました。

当法人が指定管理者となり、これまでの「大方病院」を市立病院として運営することになりました。

田村地域の医療・保健・福祉サービス向上のために、地域のみなさんとともに歩んでまいります。

診療科目

- 内科
- 人工透析内科
- 形成外科
- 外科
- 整形外科
- 循環器内科
- 皮膚科
- 眼科
- 麻酔科 (ペインクリニック)
- リハビリテーション科

診療時間

- 月・火・水・金曜日 午前9時～12時、午後2時～5時
- 木・土曜日 午前9時～12時、午後休診



たむら市民病院
病院長
佐瀬 道郎

たむら市民病院は、令和元年7月に田村市長が開設者となり当法人が指定管理して開院します。前身となる大方病院は、当法人創立の翌年の大正15年に創立された長い歴史のある病院です。整形外科、内科、麻酔科 (ペインクリニック)、人工透析を中心に診療を行ってきましたが、新たに循環器内科、リハビリテーション科、形成外科を標榜します。循環器内科は木島特任病院長と清野循環器内科部長が外来診療に携わって下さいます。これまで理学療法士によるリハビリテーションは行われていませんでしたが、限られた環境を有効利用してリハビリも行っていきます。形成外科では、高齢者に発症しやすい皮膚癌や褥瘡、重症下肢虚血などの診療を行います。このうち褥瘡医療には特に力を入れています。褥瘡の治療と予防の実際を地域全体に理解していただけることを目指します。具体

的には個々の患者さんにとってどのようなポジショニングが予防に有効か診断し、施設や在宅でも継続できる方法を提案します。そのため看護部からは褥瘡ドックに携わった経験豊富な看護師を配属してもらいました。また訪問看護ステーションに在籍する特定行為研修終了者による在宅でのデブリドメンも行います。

田村・阿武隈地域の方々が安心して医療が受けられるような病院づくりをしていきますが、福島県全体が医師不足に悩まされている中で、救急医療や急性期医療をたむら市民病院で行うには長い道のりが必要です。当面は星総合病院をはじめとする郡山市内の二次救急医療機関でスムーズに急性期医療が受けられるように、また症状が安定した後は退院までの入院治療をお引き受けできるよう三春病院、公立小野町地方総合病院と緊密な連携をとっていきます。

職員一丸となり皆様に信頼される病院となるよう邁進していきますので、ご指導・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

星総合病院ホームページに 「がん診療」のコーナーが できました

- ・ 外来診療について
 - ・ 化学療法
 - ・ 緩和ケア
 - ・ キャンサーボード
 - ・ 啓発活動
 - ・ 診療・検診実績
- など、星総合病院のがん診療のことをまとめました。



診療・検診実績の中から
星総合病院の乳がん検診データに
ついてご紹介します。

☆ 星総合病院 乳がん検診（マンモグラフィー） ☆

年 度	検診数	※1要精検	要精検率	精 検	乳がん	※2陽性反応的中率
2015	1,137 人	104 人	9.10%	83 人	2 人	1.92%
2016	1,198 人	111 人	9.27%	90 人	3 人	2.70%
2017	1,270 人	130 人	10.20%	111 人	8 人	6.20%

※1 マンモグラフィーで異常と判断された人の数

※2 要精検者の中で真に乳癌と診断された人の割合

星総合病院の乳がん手術症例数

2016年度 227件、2017年度 239件、2018年度 235件



健診センター

11人に1人が乳がん！

厚生労働省「平成28年（2016）度地域保健・健康増進事業報告」によると、平成27年（2015）度に乳がん検診を受けた方（40歳-69歳）のうち、7.99%が要精密検査、そのうち4.15%の方から乳がんが見つかっています。（陽性反応的中率）5つのがん検診（肺・胃・大腸・乳・子宮）のうち、がんの発見率が最も多いのは乳がんであり、早期発見が大切です。
40歳を過ぎたら、必ず乳がん検診を受けましょう。

当法人には乳がん検診「マンモグラフィー」 実施施設が3つあります。



マンモグラフィー

乳房のX線撮影で、挟むことで触っても分からないくらい小さなしこりや石灰化を映し出すことができ、早期発見に有効です。

ABVS乳腺エコー

乳房の内部を映し出す超音波撮影です。超音波なので被ばくせず、乳房が発達した方や若い方におすすめです。



乳がんの罹患率は40代から上がるため、市町村の乳がん検診（マンモグラフィー）が行われています。

1～2年に1度は必ず乳がん検診を受けましょう。

星総合病院 健診部 024-983-5516
ほし横塚クリニック 024-956-7778
三春町立三春病院 0247-62-3131

星総合病院には 「ABVS 乳腺エコー」があります。

お問合せ：星総合病院

024-983-5511（代表）

→ 検査受付をお呼び出してください。



年齢や体質、症状によって適した検査があります。気になる方はお問合せください。

☆こども事業部News☆



☆ プールが寄贈されました ☆

日本テレビ「24 時間テレビ 愛は地球を救う」より、復興支援として三春町第2 保育所へ園児用プールが寄贈されました。

天気の良い日は楽しくみんなでプール遊びを楽しんでいます。

<子育て応援プロジェクト> 第3 回子育て講座

☆「こどもの救急・危険」ご案内☆

小児科医師・防災担当者による「こどもの救急・危険」をテーマに子育て講座を開催します。

8/28(水) 17:45～ 三春町第1 保育所

9/ 4 (水) 17:45～ ポラリス保健看護学院3F

※ どなたでも参加できます。

6/22 開催
しました！

<子育て応援プロジェクト> 第2 回子育て講座

☆「小児の一次救命処置」開催報告☆

乳幼児の命が危険な場合の対処法について、専門職による実技を交えた講座を開催。定員20 名はすぐにいっぱいになり大好評でした。

※お問合せ：星総合病院 024-983-5511 (代)
こども事業部をお呼び出し下さい。

<子育て応援プロジェクト>

★子育て講座年間プログラム★

8/28(水)・9/4(水)「こどもの救急・危険①」

9/21 (土)「食育について」

10/26 (土)「公開講座 子育て支援」

11/16 (土)「小児のスキンケア」

12 月上旬「こどもの救急・危険②」

参加費無料



☆ キッズベースまつり ☆

10/12 土

場所：大町キッズベース
(郡山市大町2 丁目3-26)

今年も「キッズベースまつり」を開催します！出店やイベントなど様々な企画を準備中です。老若男女問わず、どなたでもお気軽にお越しください。

☆ お仕事体験イベント ☆

今年も「お仕事体験イベント」に参加します！

☆ KFB まつり

10/5 ～ 10/6：ビッグパレットふくしま

☆ こおりやま産業博

10/12 ～ 10/13：ビッグパレットふくしま

医師や看護師、リハビリ職、保育士のお仕事体験ブースを出展します。

古川内科眼科医院



- 所在地 〒963-8835
郡山市小原田 4-12-26
TEL 024-956-6500
- 診療時間 【午前】 9:00~12:00
【午後】 14:00~18:00
※眼科は16時迄 ※土曜日は16時迄
- 休診日 日曜・祝日・木曜午後
- 開設者 古川 哲夫
- 診療科目 内科・消化器科／眼科

「とにかく明るい！このオーラの正体は何だろう！？」古川内科眼科に入った瞬間に感じた思いでした。今回の取材は、その理由を探る時間となりました。

幼稚園からの夢

先生が開業されたのは平成16年。世襲ではない新たな医院の開業。住民の方々に知って頂くには時間がかかったそうです。「生まれ育った場所、地元に戻って何かの役に立ちたかったのです。『困りごとがあったら行ってみっか。』そんな町の医者になりたかった。その夢は幼稚園の頃から描いていて、15年前にその夢が叶ったのです。」古川先生のその言葉は衝撃的でした。誰かの役に立ちたいと考える幼稚園児を私は知りません。たとえ幼稚園の時に医師を目指したとしても、それが人の役に立ちたいからの理由であるとは驚きでした。

町のサロン

「自分は幸運なんです。スタッフが本当に良くやってくれたお陰で、少しずつ地元の方々に知ってもらえるようになりました。今では、受診でなくスタッフに相談に来られる方もいらっしゃるようです。また、待合室で待ち合わせをする方がいたりします。自分の友人やそのご家族の診察が出来るのもうれしいことです。」

「急性期病院に勤めていた時は、医学的判断を伝えるにも、自分本位な部分があっ



たと思います。診断結果が全てだったのかもしれませんが。しかし開業して患者さん達から本当に多くのことを学ばせていただきました。お一人お一人の背景や生活のあり方を知って、『患者さんの納得』を大事に向き合わなければならないことと、それを伝えるスキルも多くの関わりの中から学びました。」

先生から感じるオーラは「謙虚な聡明さ」。町のサロンのような居心地の良さは、先生やスタッフの皆さんから発せられているものでした。



古川 哲夫 先生

愛しむ心

先生のお母さまは地元で歯科医院を開業されておられていたそうです。お兄様とお姉様も歯科医師、そして古川先生は医師、奥様も医師としてご一緒に働かれています。子供のころ、休日に家族で外出するはずの予定を、急患の為にキャンセルされたり、厳しいお母さまだったそうです。しかし診療の傍ら、3人のお子様を歯科医師や医師に育てられた揺るぎないシンプルな母の愛。明るさの原点は母の愛と、他人や地域を愛しむ心でした。

編集後記

取材はリラックスして楽しい時間でした。集合写真の皆さんの笑顔も素晴らしいですが、最後に車の中から私たちに会釈してくださった、奥様のとびきり美しい笑顔は最高でした。

(公益財団法人 星総合病院 法人広報部 佐藤 美重)

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス
http://www.hoshipital.jp
発行／公益財団法人星総合病院
編集／法人広報部
発行日／令和元年8月
住所／〒963-8501
福島県郡山市向河原町159番1号

公益財団法人 星総合病院

- 星総合病院
〒963-8501 郡山市向河原町159番1号
TEL 024-956-5511
- 星ヶ丘病院
〒963-0211 郡山市片平町字北三天7
TEL 024-952-6411
- 三春町立三春病院(指定管理)
〒963-7752 郡山市三春町字六升崎50番地
TEL 0247-62-3131
- たむら市民病院(指定管理)
〒963-4312 郡山市横塚2丁目20番36号
TEL 0247-82-1117
- ほし横塚クリニック
〒963-8803 郡山市横塚2丁目20番36号
TEL 024-956-7778
- 星訪問看護ステーション
〒963-8803 郡山市横塚2丁目20番36号(ほし横塚クリニック内)
TEL 024-956-2322

・サテライト星ヶ丘(星ヶ丘病院内)

TEL 024-962-1711

・サテライトしすか

〒963-0209 郡山市御前南5丁目18番地

ウエストパークB棟102号

TEL 024-983-6410

・サテライト三春(三春病院内)

TEL 0247-73-8270

●介護老人保健施設オリオン

〒963-0211 郡山市片平町字筆三天2

TEL 024-952-6413

●芳賀・小原地域包括支援センター

〒963-8822 郡山市昭和2丁目17-2

TEL 024-941-1121

●星総合病院在宅介護支援センター

(ほし横塚クリニック内)

TEL 024-983-5515

●居宅介護支援事業所星ヶ丘(星ヶ丘病院内)

TEL 024-952-6414

●養護老人ホーム三春町敬老園(指定管理)

〒963-7752 郡山市三春町字六升崎50番地の1

TEL 0247-62-3618

●ボラリス保健看護学院

〒963-8801 郡山市向河原町159番7号

TEL 024-983-5010

●大町キッズベース

〒963-8001 郡山市大町2丁目3-26

TEL 024-953-5401

●ほしのこ保育園

〒963-8501 郡山市向河原町159番1号

TEL 024-983-5519

●星ヶ丘保育園

〒963-0211 郡山市片平町字北三天7-3

TEL 024-951-0788

●三春町第1保育所(指定管理)

〒963-7769 郡山市三春町担持1丁目4番地の1

TEL 0247-62-3539

●三春町第2保育所(指定管理)

〒963-7719 郡山市三春町字貝山字泉沢100-1

TEL 0247-62-2748